

私がなぜ現在の科目を選んだか

「臨床検査部」

信州大学医学部病態解析診断学講座
上原 剛

私が臨床検査部を選んだ理由は単純明快、顕微鏡を覗くのが好きだからです。また臨床検査部という病院内での診断部門の存在を知っていたのも大きいと思います。なぜ知っていたかといえば、やはり勝山 努先生による影響が大きかったと思います。今から十年以上前、私は卓球部に所属していました。ちょうどその時の卓球部部長が臨床検査部の部長であった勝山先生でした。私は主務であったので懇親会日程などを伺いに検査部に出向いたりすることが多く、また懇親会で話をしたりすることもしばしばありました。そのような状況であったので断片的に臨床検査部のことを聞くことができ、今では比較的知られるようになった病理医や臨床検査医のことも知り、進路を決めるまでにおぼろげながら臨床検査部のことをイメージできるよう

になっていました。

卒後多少の迷いはありながらも、思い切って病理医・検査医への道に飛び込みました。しばらくの間は、他科と大きく異なる環境など戸惑い、悩み、また迷いが絶えませんでした。しかし次第に大きくなっていった臨床各科との繋がりが私の悩みを消し去ってくれました。病理標本を丹念に調べることで臨床医の疑問や期待に応えることができた時や、疾患解明の手がかりになるような有意義な discussion ができた時などは標本一枚からこんなに情報を得ることができるんだなとしみじみ思うことがしばしばあります。

見えないものが見えてくる面白さ、その逆に見えていても考えていないと見えないもの。病理診断はまだ奥が深く本当に満足いくような診断ができるようになるには時間がかかりそうです。

大学入学当時まさか自分が臨床検査部に入ろうなんて夢にも思いませんでした。しかし今では周りの多くの人々に支えられ病理医・臨床検査医として充実した毎日を送っています。人生は何があるかわからないからおもしろいですね。

(信大平9年卒)

私がなぜ現在の科目を選んだか

「脳神経外科」

相澤病院脳神経外科
青山 達郎

いつも信州医誌が送付されてくると真っ先に読むのがこのコーナーでしたが、とうとう私に順番が回ってきました。私たちの学年は臨床研修制度が導入される前の最後の学年であり、卒業と同時に希望する科に入局することができました。猶予期間がない分、悩んでも仕方がなく、入局しないとホントの所は分からないというところがありました。

私の場合、脳神経外科を選ぶのに悩んだかというところ全く悩みませんでした。いわゆる一目惚れしてしまったのです。ですので、あまり参考にはならないかもしれませんが。臨床実習が始まる医学部5年生になった時点で相手のことが分からないまま、「脳神経外科医」

という響きに憧れて、自分は脳神経外科医になるのだと思いつき、みんなに言いふらしてしまいました。一目惚れした脳神経外科にアタックするべくポリクリで回って以来、医局旅行や忘年会などの行事には参加させてもらいました。そして浮気することもなく卒業と同時に念願の脳神経外科に入局しました。

憧れていた脳神経外科医になって後悔したことはないのですが、やはり理想と現実とは異なっていて、予想以上に仕事内容は大変で自信喪失しました。なかなか思い通りにいかない脳血管撮影、英語でのプレゼンテーションに奥の深い画像読影、厳しい指摘のあるカンファレンス、次々にくる脳梗塞や脳出血、くも膜下出血など…もう無理、勘弁して、と思うこともしばしばありました。でも、今年で脳神経外科医になって7年目、まだまだ一人前とは到底言えませんが、1人でできることも増えてきて今はとても充実しています。また全国的には脳神経外科医は人気がないようですが、信州大学には毎年2～3人は入局しており前途は明るいです。

(信大平15年卒)